

# 防災まちづくり大賞

## 熊川区(若狭町)に最高賞

### 一般部門 県内で初 住民ぐるみ評価

優れた防災活動に取り組んでいる団体などを表彰する第16回防災まちづくり大賞で、若狭町の熊川区自主防災会が一般部門の最高賞に当たる総務大臣賞に選ばれた。国の重要伝統的建造物群保存地区(重伝建)に選定されている熊川宿の町並みや住民らを守るために防災計画を策定したり、全世帯に近隣火災通報システムを整備するなど、行政との連携の下、区を挙げての取り組みが評価された。

(吉川良治)



区内に整備されている近隣火災通報システムの警報機。2011年5月、若狭町熊川

防災まちづくり大賞

は、消防科学総合センターなどが主催している。今回は全国から一般部門に58団体、住宅防火部門に10団体の応募があった。このうち、一般部門

の入賞は10団体、住宅防火部門は3団体。県内の団体が入賞するのは4回目、最高賞は初めて。同区の熊川宿は1996年に重伝建に選定され、建造物553軒のうち215軒が伝統的建造物となっている。一方、同区は111世帯282人のうち約4割が65歳以上と高齢化が進む。歴史的な町並みや高齢者を守る

ろうと、2009年に住民が町と共同で防災計画を策定した。

策定に当たっては、住民が中心となってワーク

シヨップを開き、課題を

まとめた。自主防災会は同計画に基づいて

設立され、原則25歳以上の区民が対象。消防設備の充実や防災訓練に取り組んでいる。

昨春には、民家などに設置した警報機が火災を感知すると、隣近所の警報機も連動して作動するシステムを全世帯に整備し、1人暮らしや留守の

家

家で火事が発生した場合に備えている。

区長も務める宮本哲男会長(59)は「行政と連携しながらできることをこつこつとやってきたのが評価され、光栄だ。今後は、消防設備の扱いに熟練した人材育成などに取り組みたい」と話している。

19日に東京都で表彰式が行われる。